



東海大攻撃はランで一試合平均266.7ヤードと第2位R B 宮本

ラッシング 攻撃ベスト10

		獲得ヤード (試合数)	一試合 平均
1位	国学院大学	1617(6)	269.5
2	東海大学	1867(7)	266.7
3	専修大学	1835(7)	262.1
4	法政大学	1461(6)	243.5
5	京都大学	1606(7)	229.4
6	関東学院大学	1549(7)	221.3
7	千葉商科大学	1548(7)	221.1
8	創価大学	1309(6)	218.2
9	関西大学	1472(7)	210.3
10	桜美林大学	1451(7)	207.3

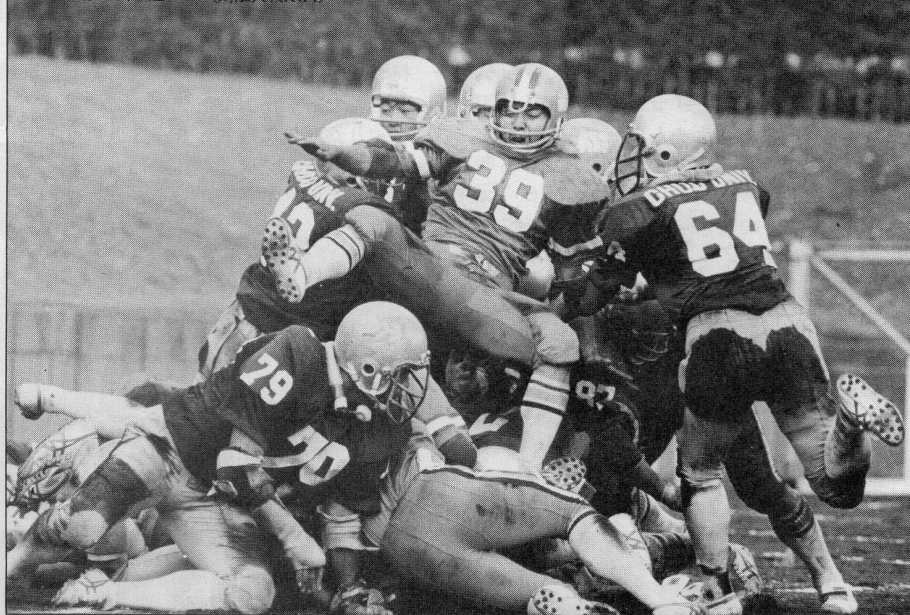
ラン攻撃91.9%国学院大トップ

ローズリーグ79年度4位の国学院大が堂々強豪を退けランキングトップ。しかし、トータルヤードの1758ヤード中ラッシングヤードが1617ヤードと91.9%をしめるラン攻撃主体のチーム。特にR B 須藤が816ヤードを一人で稼ぎチームに貢献した。これに対し、パッシングでは、

141ヤードと少しもの足りない成績で終わっている。そして、2位の東海大は、リーディングラッシャーR B 宮本の活躍が光り、一試合平均266.7ヤード。宮本の一試合平均獲得ヤードは157.3ヤードで60%近くをしめる。ほぼ宮本がボールを持って走った事が裏づけられた。3位専修、4位法政と関東が上位をおさえ、ライン力を中心とした関東のパワー攻撃が現われた。又、京大は6位ながら頭角を現わし、力強いラインを中心とした伝統的な攻撃姿勢がうかがわれる。又、関大は、トータル攻撃で2位、ラッシングでも9位と全般的に安定した攻撃内容でリーグを終了しているようだ。総合的に見て、やはりラインの力が強いチームが、ベスト10に顔を出しているようだ。

トータル守備ベスト10

中大は地味ながら強守備で関8リーグ優勝。ゆき届いたシステム守備はリーグ強豪を封じ込んだ。(対法大戦K.A.)

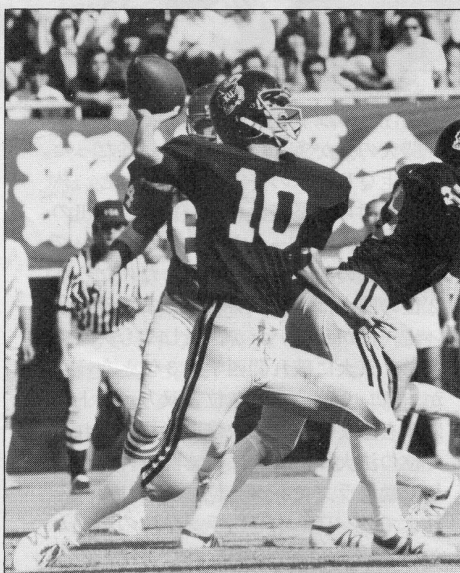


		与えたヤード (試合数)	一試合 平均
1位	日本大学	504(6)	84.0
2	中央大学	779(7)	111.2
3	日本体育大学	822(7)	117.4
4	千葉商科大学	886(7)	126.6
5	成蹊大学	1062(7)	143.8
6	創価大学	915(6)	147.0
7	桜美林大学	1062(7)	151.7
8	青山学院大学	1066(7)	152.2
9	大東文化大学	915(6)	152.5
10	一橋大学	1116(7)	159.4

日大、中大5-2-Rの完璧守備

攻撃面での充実の影には、ライン、LB、セカンダリーと多くのすぐれた逸材が揃う日大5-2-R守備があった。この部門でも日大は、2位以下に大きく差をつけ単独トップ、一試合平均84ヤードしか奪われないという恐るべき結果がでた。フロント5の着実な守備、井ノロを中心とするLB陣も、ラン、パスと自在にリアクトし、井ノロが3回、反町2回

パッシング 攻撃ベスト10



関大攻撃はパス部門第2位。関西ではトップで79年度終了
⑩QB小西

		獲得ヤード (試合数)	一試合 平均
1位	日本大学	2212(6)	368.6
2	関西大学	1549(7)	221.3
3	近畿大学	1145(7)	163.6
4	関西学院大学	1101(7)	157.6
5	大東文化大学	876(6)	146.0
6	成蹊大学	1008(7)	144.0
7	日本体育大学	963(7)	137.5
8	桜美林大学	838(7)	119.7
9	早稲田大学	706(6)	117.6
10	法政大学	696(6)	116.0

驚異のショットガン攻撃

QB 鈴木は、78年度のエースQB 金井の後を見事に継いだ。79年度の日大は、78年度とくらべ鈴木を中心の本物のショットガンをつくり上げた。文字通りパスが関東のフィールドを飛び交った。トータルヤード3371ヤードのうちパスは2212ヤード。65.6%がパス攻撃である。レシーバーを5人出すという恐るべきパス体